

講演会

身体拘束からみる失われる民主主義 我々は何をすべきか？

日本の精神科医療の中で身体拘束を受ける人が近年10年で2倍となり今も1万人以上の方が身体拘束を受けています。

最近では現場での身体拘束を減らす取り組みが取り上げられることも増えてきていますが、精神医療全体としては縮減の兆しは見えません。

一方国は、身体拘束の実施要件を定める”厚生労働省告示”を30年以上ぶりに改変し要件を拡大する提案を行ってきています。

何故このような事が起きてしまうのでしょうか？

誰しもが精神医療に関わる可能性がある現代において、人権が守られた精神医療を実現していくためには私たちは何をしていけばいいのでしょうか？

今回は、精神医療、身体拘束、虐待問題などに取り組んでいる当会理事でもある杏林大学の長谷川利夫教授を招き、ディスカッション含め、皆で考えたいと思います。

講演者：長谷川利夫（杏林大学 教授 当会理事）

開催日時：令和6年7月20日（土）10:30～12:30
（開場10:00）

開催場所：長岡市立中央図書館 講堂
新潟県長岡市学校町1-2-2

定員：会場参加 180名（先着順）

参加費：1,000円（当日受付にてお支払いください。）

主催：NPO法人にいがた温もりの会

後援：NPO法人 全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）

公益社団法人 全国精神保健福祉会（みんなねっと）・新潟県弁護士会

新潟県精神保健福祉士協会・新潟県精神障害者社会福祉施設協議会

新潟県精神障害者家族会連合会

（以上依頼中）



【申し込み方法】

本誌のQRコードの申し込みフォームよりお申込みいただくほか、下記事務局へお電話、FAX、メールにてお申込みいただけます。

開催事務局：NPO法人にいがた温もりの会（担当 高井）

Tel：025-383-8664 FAX：025-383-8850

メールアドレス：nukumori8664@gmail.com

